

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~21 : 30)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	3人	5人	0人	8人

前回の改善計画
体験利用時の情報収集について、これまでは紹介元に一任していたが不十分と感じる部分もあるため、今後はアセスメント総括など、必要に応じてより具体的な情報を提供していただけるよう努める。
前回の改善計画に対する取組み結果
より詳細なアセスメントをいただけるよう紹介元に依頼はしたが、紹介元の匙加減ひとつであり、紹介をいただいている立場上も多くを依頼する事が難しかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	6	1	0	8
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	0	6	2	0	8
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	6	0	0	8
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	7	0	0	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	ケアマネが面談時に希望する支援を聴取し事前に会議で共有。体験利用時や利用当初には職員が配慮し、孤独感を感じないよう声掛けをこまめに行うなど対応している。 モニタリング時に限らず、電話や連絡ノート、送迎時の聞き取りも含めて利用者及び家族の希望や悩みなどを把握し、都度対応するよう努めている。

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	事前の情報が少ない場合がある。紹介をしてもらっているという事業所の立場もあり、より詳細な情報をいただくに至っていないことがある。

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
	紹介元に認定調査票を依頼する事で、詳細な情報を得られるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	5人	1人	0人	8人

前回の改善計画

家族の意向は、毎月のモニタリングや連絡ノート・サービス担当者会議を通して聴取を行っていく。利用者の意向については、意識的に日々の関りをケース記録に残し、得られた情報は引継ぎファイルを活用して、職員間で情報を共有できるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果

家族の意向については、モニタリングや電話、連絡ノート、送迎時の聞き取りなどである程度聴取できているが、利用者については日々の関わりの中で把握する意識に職員によってもムラがある。また認知症の影響で的確ではないこともあり、十分とはいえない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	7	0	0	8
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	7	0	0	8
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	0	6	2	0	8
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	0	8	1	0	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること

利用開始時やサービス担当者会議時にニーズを聴取。交付したプランを職員にも周知することで対応できている。また必要な情報については各種会議でも検討の上共有を図っている。職員が行う毎月のモニタリング時に本人の言動などにも焦点をあてることで、支援に対する適正な評価ができるようにしている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

支援計画の内容を全利用者が全て完全に実施できているわけではなく、拒否があったり、他利用者との兼ね合いがあったりと不十分な点もある。在宅支援を目標とした支援計画であるため、万人に共通するようなプランもあり、どうしても表現が抽象的になりがちである。そういった点は職員毎の主観によって捉えている部分があるのではないかな。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)

雑務等については複数の利用者に挙がっている為、利用者の特性に合わせ具体的なプラン作成を行う。各利用者のプランを職員各々がケース記録の支援内容欄を参照する等して再度認識し、意識的に取り組む。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

3. 日常生活の支援

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	3人	4人	0人	8人

前回の改善計画
ケアマネジャーがプランを作成する際、利用者の生活歴に根差したプランを意識的に組み立てることで、職員の意識改革を図る。 介護職は、生活歴に焦点を合わせ日々の関わりを行い、情報収集をする。
前回の改善計画に対する取組み結果
以前よりは利用者の生活歴に焦点を当てたプランや聞き取りができているが、職員の意識にも差やムラがある。またプランも十分に反映できているとはいえない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	1	5	0	8
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	2	6	0	0	8
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	4	3	0	8
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	6	0	0	8
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	6	0	0	8

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 各種会議や毎日の引き継ぎ時間、情報共有ファイルを通して即時的な対応ができている。 身体の変化についても当日に緊急通院対応を行うなどできている。
--------	--

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 本人が本当に望んでいる事なのかを推し量る材料に欠け、職員の予測に基づいている場合もある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
前回の計画である、生活歴に焦点を合わせた関りと情報収集を継続し、より具体的に有効活用する為にセンター方式シートの導入を行う。 また、ケアマネジャーはモニタリング時に得た情報を迅速に現場職員へ引き継ぐようにする。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2 人	5 人	1 人	0 人	8 人

前回の改善計画	利用者の自宅での様子や地域との関りについて意識的に情報収集をし、地域での生活を長期的視点で支える事が出来るよう努める。
前回の改善計画に対する取組み結果	モニタリング時などを通して情報を収集。職員へ会議や記録などで伝達することで、利用者の自宅での生活が事業所全体として把握できるよう努めた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	0	7	1	0	8
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	6	1	0	8
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	0	3	4	1	8
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	6	1	1	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 利用者との契約前にセンター方式シートを使用して利用者の情報を収集している。 必要な方には成年後見制度をはじめとした制度の利用、近隣住民の協力などの地域資源の活用を支援、見守りGPSの導入も行いリスクの軽減に努めると共に、不在時の居場所についても把握できるよう努めている。
--------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 自宅での様子について情報収集はしているが、利用者によっても差がある。 地域資源等職員によってはしっかりと把握できていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内) モニタリングは、問題点に焦点を当てすぎず、自宅での生活の全体像を把握できるようにする。 地域資源に関しては年間研修予定に組み込まれており、次年度も引き続き研修を行うことで職員育成に努める。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	8 人	0 人	0 人	8 人

前回の改善計画
<p>地域への外出機会は、これまで以上に情報収集を行い利用者の選択肢を増やすことで、利用者が主体的に参加できるようにする。 勤務形態が変則的である為、都度ミーティングを行う事は難しい。当日リーダーを中心に全職員が情報を共有出来るよう努める。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果
<p>外出機会自体は地域を問わず多く持たせていたのではないかと。利用者から要望があったものについても日を改めて実施したり、可能な場合には即日に対応したりと臨機応変に対応できた。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	6	2	0	8
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	4	1	0	8
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	6	0	0	8
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2	6	0	0	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>必要な方には地域住民や民生委員等の協力を得て支援する事ができている。利用者や家族からの希望・要望に対しても可能な限り柔軟に対応。希望のうち大半は対応する事ができている。 利用者の変化やニーズについて、聞き取りや気付いたことなどがあれば当日の引き継ぎや口頭を中心に職員間で周知し、共有することができている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>インフォーマルサービスはあくまで必要な利用者中心であり、全ての利用者支援に位置付けているわけではない。地域資源についての認知度に職員差が大きく、今以上の学習の機会が求められる。 引き継ぎは毎日定時に実施しており、その後発生した事項については口頭等での共有が中心であり、柔軟にもう一度引き継ぎを改めて行っていないことが多い。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>14 時以降に引継ぎは行っていないが、大きな問題は見られない為、現状通りとする。 インフォーマルサービスを全利用者に取り入れる必要性はないが、利用者の変化に合わせ即自的な対応が出来るよう細心の状態の把握に努める。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

6. 連携・協働

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	3 人	5 人	0 人	8 人

前回の改善計画
 職員体制がある程度整備されたこともあり、介護職員のサービス担当者会議への参加を促進、そのために日程を早めに調整していく。夏祭り以外の行事で地域の方が楽しめそうな内容については数回事業所前に告知を行った経緯がある。参加自体はなかったが、今後も取り組みを継続していく。地域の催事により多く参加できるよう、関係機関への問い合わせを行うことで、計画的に勤務を調整していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
 年度初めは職員体制も整ってはいたが、その後職員の異動があり補充されないまま現在に至っている。その影響もありサービス担当者会議への担当職員の参加は数回程度しかできなかった。また地域行事への参加についても人数の都合上対応できないことがあった。行事の参加は引き続き外部に向けてポスターなどで発信をしたが参加は昨年同様なく、徐々に呼びかける機会が減少していった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	0	3	2	3	8
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	4	1	3	8
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	2	5	1	8
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	4	2	2	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 健やかサロンには介護職員が、各種機関との会議には管理者が中心に出席。その他地域の防災訓練にも防火管理者が参加した。
 地域の方が歌を唄いに来て下さる他、夏祭りや地域の中学校との提携を通して、機会は限定的だが地域の方と利用者のふれあいがあった。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 地域の団体の活動では防災訓練以外の参加ができていない。
 催事を除くと地域の方が来訪する機会はほとんどない。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
 法人本部と連携し、人員不足の解消に努める。
 地域内の他事業所との交流機会を促進し、催事への参加や情報交換を相互で行えるように努める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

7. 運営

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0 人	5 人	1 人	2 人	8 人

前回の改善計画
地域の方にも来訪してもらえるよう、行事開催の告知は次年度も継続して行っていく。また、消防訓練を地域も巻き込んだ形式で開催していけるよう、取組みを継続し定着を目指す。

前回の改善計画に対する取組み結果
催事開催時の告知を行ってはいたが、参加がなく徐々に縮小していった。また消防訓練に地域の消防団を交えての実施を画策したが、消防からの意見もあり実施しなかった。地域との消防についての協力としては地域の消防訓練に参加した。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	1	6	1	0	8
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	7	0	0	8
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	7	0	0	8
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	3	4	1	8

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
会議などを通して職員から意見が挙がることも多く、意見のし易い環境ではないか。
利用者・家族には毎年アンケートを実施し、その中で意見要望を募る他、連絡ノートや送迎時、モニタリング時に出た意見等についても必要があれば会議で検討している。
地域からの意見は主に運営推進会議を通して収集・職員会議等で検討を行っている。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
表立った苦情がなく、十分にくみ取れていないのではないか。
地域と協働した取組みに関して、事業所からの発信は昨年同様夏祭りが中心であり、社協や包括をはじめ、要望があれば協力をしている程度に留まっている。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
苦情に関する研修を通し、表面化されていない苦情も汲み取れるよう努める。
地域との協働に関し、他事業所の取組み例を参考に出来るよう情報収集を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0人	3人	4人	1人	8人

前回の改善計画	外部研修への参加は、次年度も同様のスタンスで取り組んでいき、今年度よりも参加回数を増やし、職員に学びの場を提供していく。地域連絡会についても出来る限り参加していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	異動に伴い職員体制が整備されず、結果として前年よりも外部研修への参加機会が設けられなかった。研修時間など考慮すれば参加できるものもあったと思われる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	3	4	0	1	8
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	0	5	1	2	8
③	地域連絡会に参加していますか	0	4	2	2	8
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3	5	1	0	8

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
法人内研修には概ね参加できており、職員個々の資格取得のための研修については一任しており、強制参加とはしていない。 地域連絡会への参加はしたが、回数が少なく概ね 3 回に 1 回程度の参加であった。 リスクマネジメント研修を定例で年に 1 回開催し、学びを深めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
資格取得の研修は職員に一任していた結果、参加していないことの方が多かった。また外部研修への参加は機会こそあったものの、昨年と比較すると減少している。 リスクマネジメント委員会に参加しているが、委員会での落とし込みが毎回完全にはできていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
職員態勢の都合もあり、外部研修への参加が滞ってしまった。職員態勢を整え、外部研修への参加を促進する。また、職員個々の希望もあるが、必要とされる研修を管理者が整理し、参加できるよう留意する。 リスクマネジメント委員会における情報の周知は継続的に行えるよう、議事録の開示及び職員会議での補足を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 11 月 22 日 (20 : 30 ~ 21 : 30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 西村・大石・澤田・飯田・坂本・西田

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	2人	6人	0人	0人	8人

前回の改善計画
利用者へのみえない虐待を防止するため、職員会議で利用者への対応の振り返りをする機会を作る。

前回の改善計画に対する取組み結果
職員会議の中に利用者への接遇を振り返る機会を設け、3ヵ月に1回共有・自身のケアの振り返りの機会を設けた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	7	1	0	0	8
②	虐待は行われていない	6	2	0	0	8
③	プライバシーが守られている	4	4	0	0	8
④	必要な方に成年後見制度を活用している	5	2	1	0	8
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	5	0	0	8

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
会議や研修を通して虐待について、その他マニュアル化することで個人情報についても振り返りを行っている。実質的に虐待や情報保護は適切に管理されている。また成年後見制度が必要な利用者については、既に導入していたり、導入に向けて働きかけている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
成年後見制度が必要な方がおり、事業所から行政に働きかけているが、未だに正式導入ができていない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
今年度より導入した接遇に関する振り返りを今後も継続。気付きを共有し、自身のケアについての見直しや戒めをする。
年間研修計画に組み込まれている、虐待・権利擁護に関する研修を次年度も実施する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 柘野福祉会	代表者	杉本 豊平	法人・ 事業所 の特徴	(法人) 昭和56年に誕生し、京都市北区の特別養護老人ホームを中心として、京都市内に多様・多数の高齢者福祉事業を展開している。
事業所名	ガーデンハウス下鴨	管理者	坂本 陽平		(事業所) 平成19年より、由緒ある左京区下鴨で事業を開始。民家を改修した温かみのある建物である 登録25名・通い15名・宿泊5名を定員として現在運営をしている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4人	0人	1人	1人	1人(知見者兼)	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	目標達成のためにも職員人数の確保が最低限必要となる。 安定した職員人数を確保することで、各目標が達成されるよう尽力する。 一部職員に於いて事業所評価に十分協力してもらえなかった感がある。職員にしっかりと重要性・必要性を説明し、次年度は全介護職員が連携し合って取り組めるように努める。	異動もあり、今年度も職員体制がなかなか安定せず、業務に支障が出るがあった。事業所評価については対象職員からの意見集約もスムーズに行え、昨年度から一定の前進がみられたと評価している。	真面目に取り組んでいる。 それぞれの取り組みに努力できている。 地域とのかかわりについて改善はみられるが、十分ではないと感じられる。 スタッフ全員の率直な意見が集約され、改善計画にも積極的に取り組んでいるのがよくわかる。 前向きであると感じる。	今年度は構成員の意見を集約する際効率的ではなかった。 次年度は計画的・効率的に事業所評価を行えるよう、実施すべき工程を整理したうえで取りかかる必要がある。また、引き続き職員体制の安定に努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進会議の構成員に現場を実際にみてもらう機会をつくる。 夏祭り以外にも地域の方に来訪してもらえるよう、ポスターなどを掲示することで地道に呼びかけを行う。	機会は多くなかったが、実際に構成員に介護現場をみていただく機会をつくり対応。 行事の際にはポスター等を通して地域の方にも参加を呼びかけた。	・イベント時など、事業所の取り組みを知らせる努力がみられる。 ・回数自体は多くはないが、施設内をみる機会も作ってもらい、しっかりと取り組みができていると思った。 民家を改修した事業所なので、1階フロアはやや狭いように感じる。 ・限られた空間を工夫してうまく使用していると思う。一方で書類などの保管場所に 支障が出る事業所ではないかと感じる。	日に数回換気の機会を設け、より利用者にとって居心地のよい事業所となれるよう努めていく。 書類保管の目的で庭に物置を購入し、設置している。書類の整理を的確に行うことで、 保管に支障が出ない様努めていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の催事などに参加・協力をしていく中で、事業所の名前や所在を知らせてもらえるよう努めていく。	社協が開催するすこやかサロンや認知症サポーター講座への協力など、事業所を知ってもらえるよう事業所名と所在地を話す機会をもった。	地域行事への参加が、職員人数の減少によりこれまでより減っているのが残念に思う。 職員人数が少ない中で努力できている。	引き続き事業所を地域の方に知ってもらえるよう、催事などへの協力と事業所行事の開催を通して取り組んでいく。そのためにも安定した職員体制の構築ができるよう、法人の人事とも連携しながら取り

				組みを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	例会に多く参加できるよう勤務調整を行う。 利用者の地域行事への参加を促進する。 地域包括との連携により、行方不明高齢者の捜索に協力する。	例会への参加はしたが、毎回の参加が職員体制の問題もあり困難であった。 利用者が下鴨神社や地域の催事に参加できるよう行事企画を行った。 行方不明高齢者捜索にあたっては、送迎用の携帯電話を登録し、タイムリーに情報を得、捜索に協力できるよう努めた。	例会にも何回かではあるが参加できているときいている。 しっかりと取り組みができています。 利用者と馴染みの店に一緒に行ったりとされており、よい取り組みだと思ふ。 地域と利用者の繋がりが切れない様努力されている。	・例会に参加する機会を増やすため、勤務調整を行っていく。 ・利用者が地域行事に参加する機会を増やすため、社協などの関係機関と連携し、情報収集を行っていく。 ・事業所から自発的に動くことは難しいが、地域の利用者以外の方で検討する必要があった場合、地域包括と連携し、必要な協力をしていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	提案・助言に対する取り組みや、その結果報告を行う。	運営推進会議で挙げた助言や提案については職員会議にて職員へ周知し、必要に応じて検討及び会議での報告を行った。	運営推進会議での意見などに対し、その後検討や実施などできている。	昨年度に引き続き、運営推進会議での構成員からの提案や助言について会議で検討し、成果等を報告していく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域住民参加の避難訓練を継続実施。 その際の参加人数の幅を広げていく。 風水害に関する訓練を実施する。	地域住民を含めた非常災害訓練を予定していたが、結果として今年度は実施できておらず、次年度への課題となった。 風水害訓練については、消防訓練と併せて実施した。	・地域住民参加の訓練は実施できていないのではないかと。参加があっても自分は参加していない。 ・風水害の訓練は実施したと報告を受けている。 ・風水害も各地で発生している。万に備え、訓練や備蓄もしておいてほしい。	昨年度は防災訓練に地域住民の参加があったが、今年度はなく、定着していない。 構成員の方々を中心に、1人ずつでも参加していただけるよう計画・実行をしていく。

